

平成 29 年度 第 2 回 清瀬市史編さん委員会
議事要旨

日 時： 平成 29 年 11 月 22 日（水）
午前 10 時～12 時

場 所： 清瀬市健康センター第 3 会議室

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、浅倉直美、高村聰史、黒川徳男、齊藤隆雄、
齊藤靖夫、坂間和英、岡田耕輔、小西一午、中澤弘行（11 名）

欠席委員： 谷口康浩、黒田一美（2 名）

事 務 局： 企画部長、市史編さん室長、市史係 3 名（5 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 各部会活動報告
3. 『市史研究 きよせ』第 3 号について
4. 啓発版（2020 年発行）について
5. その他
6. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 29 年度 第 2 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 各部会活動中間報告【資料 I】
3. 『市史研究 きよせ』第 3 号構成案【資料 II】
4. 啓発版構成案【資料 III】
5. 市史の名称について【資料 IV】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 ただ今より、平成 29 年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を開催します。
議事に入ります前に、お知らせがございます。このたび秋の叙勲で、
委員の齊藤靖夫先生が選挙管理事務功労で旭日双光章を受章されまし
た。まことにおめでとうございます。（一同拍手）

委 員 長 では、議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただき

ます。

事務局 (配布資料について説明)

2. 各部会活動報告

委員長 では、議事に移ります。

各部会活動報告について、部会長からご報告願います。

まず、考古部会からですが、谷口部会長が欠席ですので、考古の専門嘱託員である薮下さんからお願いします。

考古部会長代理 はい。では、考古部会の活動について、代理でご報告いたします。

考古部会では、平成29年度の活動計画として、主に報告資料の再検討と、資料編に掲載する資料の選定、図版のレイアウト、遺跡の踏査と現状確認を行う予定で、これに沿って調査を進めています。

実際行った調査の報告としましては、5月にフィールド調査を一度行っております。これには古環境の資料を得るためのボーリング調査の候補地を選定するという目的がありました。また、『清瀬市史』に掲載されております中里の渋谷税氏所蔵資料の見学を行いました。

ボーリング調査の候補地選定については成果が得られませんでしたので、今後、地形学の先生に部会に入らせていただいて、改めて調査を行いたいと考えております。

渋谷さんのお宅では、『清瀬市史』掲載の資料のほかにも未報告の資料を見せていただくことができましたので、これについて資料編掲載の許可と改めての資料調査をお願いし、調査は7月に実施いたしました。この辺りでは珍しく、渋谷さんのお宅では土塁がまだ残っていますので、敷地内の測量調査を1月に行わせていただく予定です。資料の重要性に鑑みて、来年度に一度、報告書を発行したいと希望しています。

市内の未報告資料については、5月に自治会を通して資料収集のチラシを配布しましたところ、市民からの問い合わせ1件を受けました。

また、文献で考古資料が清瀬中学校に収蔵されていることがわかり、問い合わせで訪問したところ、縄文時代の石器を確認しましたので、市史編さん室でお預かりし、現在調査しています。これにつきましては【資料I】に写真を載せておりますのでご確認ください。

9月に、郷土博物館の東野学芸員から博物館収蔵の未報告資料について情報を得まして、こちらも資料を預かって調査しているところです。

東京都で所蔵されている清瀬市の資料について、問い合わせを行い12月に見学に伺えることになっています。市内出土のミズクボ遺跡の資料が行方不明になっておりますので、これは調査者に所在を問合せ中です。

既報告資料の再検討としましては、本年度からは縄文時代の資料を検討する計画で10月から始めております。

資料編掲載資料の選定と図版のレイアウトにつきましては、随時行っております。縄文時代の遺跡13遺跡中1遺跡が終了しています。

その他に、市内遺跡調査のまとめ、関連文献の収集、市内周辺地域の見学などを行っております。

普及活動として、9月に市のホームページで公開しておりますブログ「市史で候」にて、清瀬中学校で確認した石器についてご紹介しました。報告は以上です。

委員長

ありがとうございました。

ご質問、ご指摘等については、全部会の報告が終わった所でまとめてお受けしたいと思います。

では、次に、古代・中世部会の報告を浅倉部会長からお願いします。古代・中世部会につきましては、資料編の発行を再来年に控えている関係から調査が進んでおりますので、そこを考慮して少し詳しくご報告お願いできればと思います。

古代・中世部会長

古代・中世部会では、再来年の資料編刊行に向けて文書調査を中心に活動を続けております。

清瀬市史の事業は、最後に通史編を出す計画で、その前に通史編にかかわる資料について各時代で資料編を出すということで事業が進んでおります。特に戦国時代以前の資料につきましては、清瀬市に直結する資料というのは、古代・中世の場合、厳密にいうと10点ほどしかありません。ですので、清瀬市域を中心にしながら少し範囲を広げて調査を行い、そこから清瀬の通史編を書いていこうとしています。これは自治体史としてはよくある手法です。30年ほど前から各自治体史の編さんが東京地域を中心に進んでおりますので、清瀬に関する資料は既に周辺自治体史に活字として載っています。これらを改めて活字として集めただけでは、予算をつけて資料編を出すには工夫が足りないかと思います。そこで、市民のみなさまにも古代・中世を身近に感じていただけるように、古文書の写真を集めて、他の自治体とは違った、視覚に訴えるような資料集の提案ができればと考え、調査を進めております。

中世の古文書は、すでに江戸期に所蔵者が大名の転封にともなって全国に散らばっておりますので、清瀬の周辺だけの調査では済まないところがあり、広域の調査をさせていただいています。

調査では、原文書を見る、ということをお願いしています。何故かという、例えば「北条家伝馬手形」などは国会図書館にあり、インターネットで公開されておましてカラーで印刷もできる文書です。この中に、「清戸より」と清瀬に関係する地名が出ているにもかかわらず、「清戸」

という地名を知らない方が資料集に入れたときに、「清戸」を「衛戸（えど）」と読み違え、「清戸から小田原まで」が、長らく「江戸から小田原まで」と把握されていました。小田原からすると、江戸も清戸も同じ方角で距離的にもあまり違いませんので、あまり問題ないのですが、清瀬にとっては重大事項です。

実は、こうした違いは実際の文書を見なければ確認できないことで、古い写真や写しによる調査では気づかれていない誤りがそのままになっていることも少なくありません。ですので、原文書を見るというのは非常に大切なことで、清瀬では、原文書を見た上で、写真を撮って載せる、という資料集を作りたいと考えています。

また、氏照の署名の特徴として「照」の字の「烈火」つまり下の4つの点の部分が花押にかぶっていることが多いのですが、そうすると、氏照の文書だとわからない場合、「氏昭」の文書だと見立てられたりします。この例のように、実物の文書を多く見てこそわかる、ということがありますので、今の形で古文書調査を続けることによって、かなり大きな成果が得られるものと考えています。

清瀬市域は八王子城主だった北条氏照の領域なので、氏照の文書を中心に調査していますが、出版物としては、既に『新八王子市史 資料編2 中世』という分厚いものが出ており、その中に氏照の文書は文字情報として全部入っています。ですので、清瀬の資料集では、改めてそれらを活字で入れるより、写真で載せることができないかと考えています。

写真の価値は、視覚に訴えて親しみやすさを感じてもらえるという効果が期待できるだけでなく、研究上も重要な意味を持っています。

ひとつには、サインともいえる花押の形の変遷を画像で説明できることです。文書には年号が記載されていない場合も多いのですが、変遷する花押の一覧があれば、文書の年号を推定する資料となりえます。氏照の場合にはこうした資料がまだありませんので、清瀬の調査を通じて花押の一覧が作成できれば、貴重な資料として今後の研究にも貢献できると考えています。

もうひとつは、散逸の可能性をはらんでいる古文書を、画像として保存しておくことの意味です。

古文書のなかには、市町村が合併したのち所在がわからなくなっているものもあります。個人のお宅にある場合、所在を把握していた市町村で合併後の情報共有がうまく行われず、文書の所在がわからなくなるケースが中世の文書の場合には少なからずあり、大きな損失となっています。せめて写真があれば、ということになり、こうした面からも、精度の高い古文書の写真を残しておくことは急務となっています。

もう一点、ご報告しておきたいことがあります。昨年度の古代・中世部

会の活動の中で、原文書の所在がわからない古文書の精巧な写しについての調査を和歌山で行いました。この調査の成果を『市史研究 きよせ』第 2 号に発表したところ、原文書を持っているという方から市史編さん室に連絡をいただき、原文書を見せていただくことができました。写真も撮影することができましたので、資料集に反映したいと考えております。

氏照文書は全部で 150 点ほどあるうち、現在までに 83 点を調査し、撮影した写真が手元にあります。平成 31 年度に予定されている資料編の発行まで、残りの時間でなるべく多くものを集め、文書の写真を載せる形で資料編を編集したいと思っております。

委員長 『市史研究 きよせ』の成果も現れたということですね。ありがとうございました。

近世部会長 次に、近世の部会報告を私からいたします。

6 人の調査員と部会長とで月 1 回部会を行い、市内の文書の全体を把握しようとしております。まず、博物館所蔵の村野家文書、高橋家文書を見ており、これが終わると次の文書に移る予定です。

一方で市外の文書もいくつか資料を集めております。国立公文書館の内閣府文庫に清戸御殿の資料がありましたので、他にも清瀬関連の資料があるかどうか見ております。新しいものはまだ出ていませんが、引き続き調査を続けていく予定です。

埼玉県立文書館の文書では、志木で河岸問屋を営んでおりました西川家の文書を見ています。現在、埼玉県立文書館は改装中で現物は見られないのですが、目録等で、下宿などに関連するものが確認できています。西川家は志木に大きな家が 2 つあるのですが、そのうちの 1 軒の文書が國學院大学の図書館にありまして、そのなかに何点か清瀬の名前が出て来るものがありました。基本的には肥料の流通に関するものです。埼玉県立文書館、國學院大学図書館、いずれの文書も近代に関する肥料流通について数字も詳細に見ることができます。

他に、郷土博物館で、文書とは別に和本の調査を行いました。ひとつは往来物と呼ばれるような初等教育の教科書で、なかには寺子屋で使っただろうと思われるようなものや子どもの名前が書かれているもの、子どものために師匠が書いてあげているものなどがあり、江戸時代における子どもの教育の様相がわかるものがありました。

もうひとつは、俳句に関する本が多くありました。この地域で句会が多く開かれ、そこに清瀬の人たちが参加していたことがわかります。俳句の本のなかに、自分の俳句の草稿、練習稿が短冊状になって書かれていました。句会はその場で句作をするだけでなく、周辺の人が句にお金を付けて送ることで参加するというのもやっておりました。特におもし

ろかったのは、天保 10 年、1839 年に、下宿の高橋友右衛門が仲間 3 人で歌仙（36 句の連句集）を作る様子が具体的にわかる資料です。清瀬の俳句というと、昭和に入ってから石田波郷だけが強調されていますが、ずっと以前から清瀬市内においては俳句の仲間がいて、俳句を通じて周辺の文人たちと連携、ネットワークを持っているということがわかる資料がずいぶん出てきましたので、俳句は江戸時代からこの辺りで非常に盛んだっただということ、清瀬市史ではもっとアピールしていきたい、地域の文化がきちんとあったのだということ、を明確にしたいと思っています。

他に、絵本、講談本、それから読本（よみほん）と呼ばれる今でいうと小説のようなものも、『通俗三国志』など、いろいろありましたので、書き込みにも注意しながら見ていこうと思っています。これらの最後のところに判子が押してあり、いくつかは貸本屋のものなので、江戸時代から清瀬に貸本屋が廻って来ていた可能性も考えられます。そうした図書の流通、本の読み方について、近世史で研究が盛んになっておりますのでそうした成果も併せながら、清瀬の文化に関する奥深い面もきちんと見ていきたいと思い、和本の調査も行っております。

11 月の部会では、和本調査のあと、下宿、中里の巡検を行いました。栗山委員、坂間委員にはご同行いただきありがとうございました。

近世については以上です。

それでは、近代につきまして、高村部会長お願いします。

近代部会長

清瀬の近現代の全体像を明らかにしていきたい、ということで、模索しつつどういった史料があるか外側周辺からあたっているところです。

具体的には、聞きとりです。齊藤靖夫さんから 3 回目の聞きとりをさせていただきます。

資料調査は、国会図書館、国立公文書館等で進めています。国会図書館の方では占領期の資料等を見えています。そのなかで民主教育がどのように指導されてきたのか、どのような形で展開されたのかわかればよいと思っていますのですが、関東としての括りなので細かいところまでわかりません。できればそういった経験のある方のお話を聞きつつ資料を集めたいと思っています。

医療関係の資料も、昭和 7 年から 14 年度の府立清瀬病院の年報や、結核研究所の設置課程がわかる概要などを集めました。

教育関係では事務局が小学校の資料を集めてきて下さったということなので、それを参考にしたいと思いますが、それ以外にも学童疎開での清瀬の位置等を見えています。品川図書館・歴史館には学童疎開について手広く資料を集めており、広く東京都を対象とした資料集があります。

他に、三鷹では自由民権運動の関係資料、國學院大學図書館では東京都

の統計資料、横須賀市史資料室では陸海軍関係の資料にあたっています。本土防衛においてどう位置付けられていたかを考えつつ清瀬の施設について調べたいと思っています。

行政資料につきましては、郷土博物館にある資料を調べたいと思っておりますが、閲覧の自由度はいかがでしょうか。

委員長 近世部会で博物館の所蔵文書を調査する際には、いつ、どの文書を見たいかをお話して、博物館の講座室あるいはコミュニティプラザの作業室に文書を借り出していただいで調査しています。編さん室の方にはお手数をおかけしていますが、博物館はきちんと対応してくださっています。日程と見たい文書を示していただければよろしいかと思います。

委員 数年前、所蔵文書や書籍を一覧にまとめたものがあります。そのリストを参考にいただければと思います。

委員 博物館の所蔵品は大いに活用してもらいたいです。使いやすいように工夫してほしいです。

委員長 活動報告についてはよろしいでしょうか。

では、続きまして現代部会の報告を黒川部会長からお願いします。

現代部会長 現代部会では、さきほど近代部会の高村先生からも報告がありましたが、委員の齊藤靖夫さんからの聞きとりを行いました。この内容は、今年度の『市史研究 きよせ』第3号に反映したいと考えています。昨年の聞きとりは、空襲に関するものを中心にまとめましたが、今回はそれ以外の、農業や年中行事など暮らしを中心にしたものにしたいと思っています。これまでの聞きとりは全員男性からでした。生活に関する聞きとりは、ぜひ女性からしていく必要があると考えています。

資料調査につきましては、渋谷信之市議のお宅に伺い、蔵も見せていただきました。ご用意いただいていた資料を編さん室に移動し整理しています。

また、大学図書館などでの文献調査も行い、明治13年の偵察録や、『三多摩自由民権史料集』『東京都神社名鑑』『八王子の空襲と戦災の記録』等々を調べました。なかでも、明治13年の偵察録は各地の土地の様子が見える重要な史料です。この時点の日本の軍隊は内乱鎮圧型で、地方から東京をどう守るかという視点で書かれているのですが、この中にある「川越街道防衛考案」では、清戸下宿が防衛ラインとしてどう位置付けられていたのかが読み取れます。

近現代の資料は膨大な資料が地元から出て来るものですが、地元以外にも軍の資料や統計資料などが出てきます。今のところはそういった資料を中心に調査を進めています。

市史編さん後の資料の保存保管について少しふれておきたいのですが、小平市の図書館では、古文書の複写物を含めて製本したものが本棚にな

らべられており、手に取ってみることができるという先進的な取り組みをしています。参考になると思いご紹介します。

報告は以上です。

委員長

ありがとうございました。

これまでの市史ではわからなかったさまざまな問題を各部会で追及しており、だいぶ違った市史ができていくのではないかと見えてきたと思います。何かございますか。

委員

さきほど、女性からの聞きとりを、というお話がありましたが、どなたか具体的な候補者がいますか？心当たりがありますので、ご紹介できればと思います。

現代部会長

ぜひ編さん室から連絡をとっていただき、調整をお願いしたいと思います。

古代・中世部会長

集めた史料のことについてですが、古代・中世部会でこれまで収集した写真などは、市史の財産ですので、市史発行後の問い合わせにも対応できるように、わかりやすくデータを整理して市史編さん室にお渡しできるよう準備を整えておりますこと、申し添えます。

委員

歴史研究の仲間に、戦国武将、西上野の国峯城主小幡信貞の子孫がおられ、古文書の写しを持っているというお話をきいています。場合によってはそういう文書を見せていただけるのではないかと思います。

古代・中世部会長

ぜひご紹介ください。

委員長

各部会の報告について、よろしいでしょうか。

委員

了承。

3. 『市史研究 きよせ』第3号について

委員長

それでは、次の議題に移ります。

『市史研究 きよせ』第3号について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

【資料Ⅱ】をご覧ください。構成につきましては、基本的に前号を踏襲し、加えまして新たに、団体委員、公募委員の方に執筆いただくコーナーを設けてはどうかということで、今回は人物紹介欄をご提案しましたが、人物を描くには書き手の主観が入りやすいこと、対象の選び方も難しく、ひとりの人物を紹介するのに短い文章では難しいなど、公開には課題が多いのではないかとご意見もありました。

そうしたことも踏まえて精査しまして、人物紹介ではなく石碑・石仏の紹介としてはどうかと考えております。石碑・石仏につきましては事務局でも調査しており、委員の方々にも書いていただきやすいのではないかと考え提案するものです。

委員会 従来の形を踏襲しつつ、委員の方に執筆いただくコーナーを新たに設けるということです。人物紹介は短い文章では難しいので、石碑の紹介で市内の歴史を掘り起こすというのはどうかとのご提案ですが、いかがでしょうか。このような形でご協力いただくということによろしいですか。

委員 了承。

委員長 それではご協力よろしくお願いいたします。

委員 構成を見ますと、石碑・石仏紹介のコーナーは見開き 2 ページ、1 ページに 1 点ですから、1 号につき 2 点を紹介するということですね？

委員長 そうですね。

委員 市が出すものですから、内容は正確でなくてはならないと考えます。一例として、清瀬小学校の 90 周年記念誌に奉安殿の写真が出ています。写りこんでいる校舎を見ると 2 階建てで、清瀬小学校はコの字型に配置された平屋でしたから、明らかにこれは違うところの写真なのですが、印刷物に一度載ってしまうとその後の 100 周年の冊子にも掲載されるということになってしまう。ですので、正確であることは重要なことと考えます。また、記憶に頼らず、文字になっているもの、書類を集めておくことも大切と思います。

委員 『市史研究 きよせ』について、せっきくこれだけの情報を提供しているのですから、こういうものを発行しているのだということをもっと PR すべきと思います。歴史好きの人たちでも存在を知らない人が多く、市報にも何回も載せるなど、PR 方法を考える必要があると考えます。

委員長 重要な課題だと思いますので、みなさんのお知恵をいただければと思います。

委員 他に『市史研究 きよせ』第 3 号についてについて、よろしいでしょうか。

委員 了承。

4. 啓発版（2020 年発行） について

委員長 では、続きまして、啓発版について、事務局からご説明願います。

事務局 前回の委員会で構成案をお示しし、当面事務局で進めていき、ある程度進んだところで委員会にお示しするということになっております。前回の委員会のあと、刊行の目的を明確にすべきである等々のご意見をいただき、それらを反映した形で、【資料Ⅲ】のように構成案を改め、お示ししております。

委員長 以前、「普及啓発版」という名前で議題にしておりましたが、編さん室の検討により、「啓発版」という名称で表記しております。基本的には市制施行からの 50 年を振り返りながら、これを清瀬の歴史を考えるきっかけ

にし、新しい歴史を見る入口になってほしいという位置づけになっているかと思います。

市制施行 50 周年に向けて刊行するのは、50 ページくらいの薄いものですから、清瀬の歴史全部を話すのではなく、市制施行後の 50 年に焦点を当ててこのような形で作っていくというご提案です。

普及啓発版を作るのは、基本方針にも市政施行 50 周年を記念して作ると書いております。ご了承いただければ、こういう形で基本的には委員の先生方の協力も得ながら編さん室の方で作っていき、できあがった原稿は委員会にお示しして確認していただきながら、訂正やご指摘をいただき、そうした形で編さん委員の方々も関わっていただくことで基本方針に沿ったものになるかと思いますが、ご意見いかがでしょうか。

委員 「啓発版」という言葉はタイトルに入るのですか？

委員長 入らないと理解しております。

委員 構成案について、よろしいと思います。導入して関心を持ってもらう入口になるというのはよいと思います。

委員 各項目の写真が、なるべく今と 50 年前の比較ということができると良いと思います。

委員 広報が撮った写真が多くありますが、昭和 40 年代になると風景は今とあまり変わらなくなっています。今おっしゃったように、今と昭和 30 年代を対比させると、おもしろいものになると思います。

委員長 ご意見ありがとうございます。またいろいろなところでご意見をいただくことになろうかとは思いますが、基本的に事務局で出していただいた、このような形で作るということによろしいでしょうか。

委員 了承。

5. 市史の名称について

委員長 次に、大きな議題として新しい市史の名称についてです。事務局からご説明をお願いします。

事務局 【資料Ⅳ】をご覧ください。親しみやすさ、わかり易さを重視し、インターネットでの検索もしやすくする、清瀬は漢字を使用する等のご意見をいただきました。これまでに『新 清瀬市史』『新編 清瀬市史』『清瀬市史 平成版』等々の案をいただき検討してまいりました。刊行のスケジュールの観点からもそろそろ名称を決定すべき時期にあるということで、市の案をご提示したいと思います。

市の案としましては、『清瀬市史 1 通史編』『清瀬市史 2 資料編 考古』・・・のように『清瀬市史』に続けて数字と内容を表す文字を添えた

- 6巻としてはどうかということで提案させていただきます。
- 委員長 いろいろな意見が出ましたが、市の案としましては、『清瀬市史』はそのままにし、前の市史との区別に、今回は6冊出るということで数字を振り、そこに通史編、資料編といった名称とすればよいのではないかとのご提案です。
- 委員 判型はどうなりますか。
- 委員長 前にお話しましたように、ひとまわり大きくして図版も載せやすくするというので、委員会でも了承されております。
- 委員 問合せがあるときに、「市史の xx ページ」という言い方をされますが、同じ名前だと問合せを受ける側にとまどいがあるということで、自治体によってはあえて名前を変えたところもあります。
- 委員 数字を入れるのではなく、『清瀬市史 通史編』『清瀬市史 考古編』とする方がよいと思います。
- 委員 私は逆に数字がある方がわかりやすいと思います。
- 委員 番号を入れるなら「〇〇編」の後に入れる方がよいと思います。
- 委員長 一般的には、通史編は1冊しかないので番号をつけない、あるいは分冊になる場合は上・下とする、資料編は1考古、2古代・中世、等々とするところが多いように思います。
- 委員 この先また新しい市史編さんをする時には、次の名称は、その時の人が考えて下さいということですね。
- 委員長 そうですね。
- 事務局 補足ですが、現状では3の資料編古代・中世が最初に出ることになっており、数字の順番には出ないなかで、3を先に買えば1や2も欲しくなるといった購買欲を促す意味でも通番で1から6という番号を振っております。通史編含め全部で6冊出るということを分かりやすく説明しています。
- 委員長 では、基本的に、委員会では通史編には番号をつけず、資料編に番号をつけるということが大勢のようですので、ここでの意見はそういうことで、この先は市側で考えて頂くということでいかがでしょうか。
- 委員長 名称を『新 清瀬市史』や『清瀬の歴史』とするのではなく『清瀬市史』という名称を使うということについてはご異論がないということでしょうか。
- 委員 了承。

6.その他

- 委員長 それでは、「その他」に移りまして、今年度の啓発事業について事務局か

らご説明をお願いします。

事務局

昨年引き続き『市史研究 きよせ』を読む」という標題で「市史講演会」を開催したいと考えております。前回は根岸委員長に「清戸の戦国と江戸」というテーマでご講演いただきました。今回は、調査が進んでおります古代・中世部会の浅倉部会長に、清瀬市域の中世について、また、北条氏ゆかりの人々などについてご講演いただきたいと考えています。

来年2月4日、日曜日の午前中、昨年同様、清瀬駅北口の生涯学習センター講座室1にて行う予定です。詳細が固まりましたら改めてご案内いたします。

委員会

よろしくお願いします。

それでは最後に、次回委員会の予定について、事務局からお願いします。

事務局

今年度第3回の委員会は3月に予定したいと思っております。詳しい日程につきましては調整のうえご連絡さしあげますのでよろしくお願いいたします。

委員長

ありがとうございます。その他につきまして、ご意見ご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。また、ご意見、ご質問ありましたら編さん室あてにご連絡いただけたらと思います。

7. 閉会

委員長

それでは、以上をもちまして、本日の日程はすべて終了いたしました。これで平成29年度第2回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

平成 29 年度 各部会活動中間報告

(平成 29 年 10 月末現在)

- ◇ 考古部会
- ◇ 古代・中世部会
- ◇ 近世部会
- ◇ 近代部会
- ◇ 現代部会

■ 考古部会【平成29年度活動中間報告】

平成29年10月末現在

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
考古部会打ち合わせ	4月12日 資料編目次案の提案、調査方針を決定		10月13日 中間報告、今後の方針を決定	
フィールド調査	5月22日 ポーリング調査候補地及び渋谷税氏宅を巡検 環境史の試料を得るための好適地を探したが成果は得られなかった 渋谷氏宅では市史掲載の資料を実見、未報告資料を含めて調査のご許可をいただいた			
渋谷税氏屋敷地内調査		7月 所蔵資料調査(鍔片などの金属製品、鉄滓、板碑の写真撮影、作図、拓本、計測) (1月測量調査予定、来年度調査報告書を刊行予定)		
市内未報告資料の調査	5月 資料収集のよびかけチラシ配布 市民からの問い合わせ一件 6月 文献で清瀬中学校所蔵の考古資料を確認し訪問したところ縄文時代の石器を発見、現在調査中	9月 東野学芸員から、博物館収蔵の未報告資料(縄文土器片、石器)を教示いただく 専門調査員が現在調査中		
行方不明資料の搜索	4月 東京都教育委員会に問合せ中、12月に見学予定		10月 ミズクボ遺跡調査者(市外在住)に 資料の所在を問合せ中	
既報告資料の再検討			→ 縄文時代、重点遺跡出土資料の調査 石器(石材、大きさ)の記録を作成中	
掲載資料選定・図版レイアウト			→ 市内縄文時代遺跡出土資料の挿図レイアウト作成、現在13遺跡中1遺跡終了	
市内遺跡調査のまとめ			→ 調査史、遺跡・出土資料一覧、分布図の作成が終了	
関連文献の収集			→	
市内・周辺地域の見学	6月 中里下戸遺跡発掘調査見学		10月 新座市カミ遺跡群発掘調査見学 (下宿内山遺跡隣接地) 東星学園資料室・防空壕見学 考古資料の所蔵確認、市内唯一の防空壕遺存例	
普及活動		9月 ブログ市史で候 「清瀬中学校で縄文時代の石器を発見」公開		

※平成29年度活動計画にある自然科学分析委託、『市史研究きよせ』の原稿執筆は今年度は行わない。



平成 29 年 6 月 清瀬中学校所蔵資料（縄文時代の石器）



平成 29 年 7 月 市内資料調査（中里渋谷家）

■ 古代・中世部会【平成29年度活動中間報告】

平成29年10月末現在

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
<p>*古文書調査 北条氏照朱印状 北条氏照書状 三田氏宗判物 大石真月斎道俊判物</p> <p>*調査古文書写真の整理</p> <p>*古文書の解説文作成 史料のデータ化</p> <p>*資料編の編集方針確認 収録史料の選定 解説文の検討 体裁・書式の検討 花押型の検討</p> <p>*今後の古文書調査の調整</p> <p>*関係資料集・自治体史の再確認</p>	<p>4/29 青梅市 和田家 4/30 奥多摩町 原島家 あきる野市 広徳寺 5/7 仙台市博物館</p> <p>画像データの整理</p> <p>史料1点ごとにPC入力</p>	<p>8/23 あきる野市 阿伎留神社 8/24 八王子市 永林寺 9/2 館山市博物館 9/7 あきる野市 三島明神社 9/15 福山城博物館</p> <p>画像データの整理</p> <p>史料1点ごとにPC入力</p>	<p>10/7 佐野市郷土博物館 佐野市 小島家 10/8 矢板市 長沢家</p> <p>画像データの整理</p> <p>史料1点ごとにPC入力</p>	<p></p>

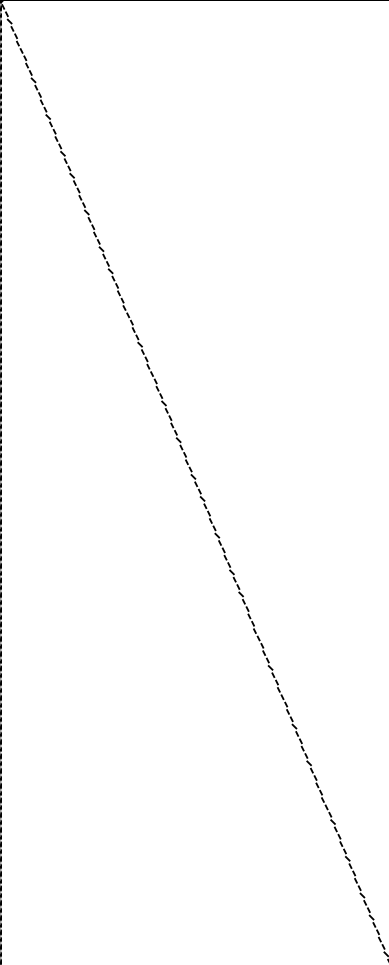
■ 近世部会【平成29年度活動中間報告】

平成29年10月末現在

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
調査	上清戸 村野家文書 下宿 高橋家文書 国立公文書館内閣文庫 埼玉県立文書館 西川家文書	上清戸 村野家文書 下宿 高橋家文書 蕪山 江川文庫 國學院大学図書館 西川家文書	上清戸 村野家文書 下宿 高橋家文書 国立公文書館内閣文庫 清瀬市郷土博物館 和本調査 下宿・中里地区実地調査	(This cell is empty and contains a diagonal dashed line from the top-right corner to the bottom-left corner.)

■近代部会【平成29年度活動中間報告】

平成29年10月末現在

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
<p>聞き取り</p> <p>実地調査</p> <p>資料調査 (国会図書館)</p> <p>(品川図書館・歴史館)</p> <p>(三鷹市役所)</p> <p>(國學院大學図書館)</p> <p>(横須賀市史資料室)</p> <p>(市役所)</p> <p>(小学校)</p>	<p>教育関係:戦後占領期教育(CI&E)</p> <p>医療関係:占領期資料(GHQ)</p> <p>教育関係(学童疎開ほか)</p> <p>自由民権運動(北多摩関係)</p> <p>「東京都統計」</p> <p>海陸軍関係:通信隊関係・首都防衛</p>	<p>齊藤靖夫氏(年中行事)</p> <p>いずれも継続調査中</p>		

■現代部会【平成29年度活動中間報告】

平成29年10月末現在

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
<p>聞き取り</p> <p>史料調査</p> <p>大学図書館での文献調査</p> <p>早稲田大学図書館</p> <p>国学院大学図書館</p>	<p>基礎的・統計的資料の調査</p> <p>偵察録 明治13年などの調査</p> <p>偵察録はマイクロフィルムにて所蔵されており目次はなく、調査に多くの時間を必要とする。複写済。明治13年に陸軍が迅速測図とともに調査したもの。各町村の地理・人情・農業・戸数・荷車・家畜・水車の数など様々なデータが掲載されている。上清戸村・中清戸村・下清戸村・清戸下宿村・野塩村・中里村の統計掲載。「川越街道防禦考案」に「敵兵の攻撃を受けるは大和田町にあらずして清戸下宿ならん…」との記述あり。</p> <p>『三多摩自由民権史料集』ほか</p>	<p>齊藤靖夫氏から年中行事</p> <p>渋谷市議の自宅・蔵</p> <p>基礎的・統計的資料の調査</p> <p>偵察録 明治13年などの調査</p> <p>『東京都神社名鑑』21社ほか</p>	<p>『八王子の空襲と戦災の記録』</p> <p>『東京都戦災誌』ほか</p>	<p></p>

『市史研究 きよせ』第3号 構成案
総ページ数 80 p (第2号同様)

<巻頭カラー> (頁数外)

◇資料写真

◇写真館

*目次 (1 p)

◇古代・中世部会調査報告 (25 p)

◇聞き取り調査報告 (近代部会・現代部会) (20 p)

◇講演会報告 (2 p)

◇資料紹介 (2 p)

◇専門部会調査報告 (2 p × 5 部会 = 10 p)

◇委員による石碑・石仏紹介 (1 p の紹介 × 2 = 2 p)

◇予備頁 (6 p)

◇覚え書き (10 p)

基本方針 4 p / 編さん委員会開催状況 2 p / 市史で候タイトル一覧 2 p / 関係者名簿 2 p

*資料提供のおねがい (こんな資料をお持ちではありませんか) (1 p)

*編集後記・書誌 (1 p)

啓発版構成案

前回委員会後に寄せられた意見を基に改定

テーマの範囲を敢えて大きくし、写真の選択をしやすくした
年表を概説付で冒頭にし、50周年というテーマを分かりやすくした
箱ものなど解説がしづらいものは、概説の中に写真を盛り込む

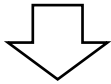
巻頭大型写真頁 現在の清瀬市パノラマ				
1頁		巻頭挨拶		
2頁				
3頁				
4頁		目次		
5頁				
6頁		市制50年を振り返る (50年の概説と清瀬の年表)		
7頁				
8頁				
9頁				
10頁				
11頁				
12頁	図 版 で 振 り 返 る 清 瀬 の 歴 史 を	遺跡・東山道 (市内の遺跡や悲田処等について)	(図 版 中 心)	
13頁				
14頁		北条氏と清戸番所		
15頁				
16頁		鷹場		
17頁				
18頁		村絵図		
19頁	清 瀬 の 歴 史 を 写 真 で 振 り 返 る	清瀬を写真で振り返る 15のテーマ	(写 真 中 心)	
20頁		30頁 基本的に見開きに1テーマ 1頁に2～3枚の写真を想定		
21頁				
22頁				
23頁				
24頁				
25頁				
26頁				
27頁				
28頁				
29頁				
30頁				
31頁				
32頁				15のテーマ
33頁				農業
34頁				暮らし1
35頁				暮らし2
36頁				結核療養
37頁				商店街
38頁				道
39頁				鉄道
40頁				祭
41頁				子ども
42頁				自然
43頁				役所
44頁				行事
45頁				空中写真
46頁				団地
47頁				予備テーマ
48頁				
49頁				
50頁	書誌			
51頁				

市史の名称について

- ・方向性 親しみやすさの重視
分かりやすさの重視
- ・留意点 インターネットや図書館の検索システムへの適合性
→ 「きよせ」よりも「清瀬」が好ましい
現行との区別
将来の刊行への配慮 「新」や「新編」と付けた場合、その次はどうするか

・これまでに寄せられた案

『清瀬市史』	『清瀬市史 平成版』	『清瀬市史 ○○○○年版』
『新 清瀬市史』	『新編 清瀬市史』	『新修 清瀬市史』
『きよせの歴史』	『清瀬の歴史』	



・市史編さん室案

『清瀬市史 1 通史編』
『清瀬市史 2 資料編 考古』
⋮
『清瀬市史 6 資料編 現代』

選考理由

分かりやすい
○○編と付くので、前のものとの区別がつく
「通史編」や「資料編」の名称と並べると、『清瀬の歴史』や『きよせの歴史』は柔らかすぎる
「市史編さん」の部署名で広報活動をしてきている
図書館で書名順に並べた時、前のものと並び配架される

参考 新旧名称の比較

平成 26 年第 2 回委員会資料より抜粋・補足

調査対象：2012 年以降自治体史を刊行している自治体中心

同名を採用

『○○市史』⇒『新○○市史』

『○○市史』⇒『新編○○市』

『○○市史』⇒『新修○○市史』

『○○市史』⇒『○○市史 続巻』

『○○市史』⇒『続○○市史』・『○○市史 続』

『○○市史』⇒『新○○市史』⇒『新修○○市史』

所沢市『所沢市史』 板橋区『板橋区史』

八王子市 狛江市 青森県青森市 など

八丈町 青森県八戸市 長崎県大村市

北区 愛知県豊田市 大阪府池田市

岡山県倉敷市 福岡県福岡市 など

富山県魚津市

埼玉県日高村 埼玉県大宮市（現・さいたま市）

北海道釧路市

名称変更 武蔵野市『武蔵野市史』⇒『武蔵野百年史』『武蔵野百年史 続編』

埼玉県名栗村『名栗村史』⇒『名栗の歴史』

※自治体名が変わり町史⇒市史といった名称変更に残っている自治体は除く